

あいち低炭素水素サプライチェーンの進め方（検討資料）

あいち低炭素水素サプライチェーン推進会議は、今年4月に策定した「あいち低炭素水素サプライチェーン2030年ビジョン」の実現に向けて、以下の取組を推進する。

1 仲間づくり・プロジェクトの推進

再エネ提供者、低炭素水素の製造、輸送、利用者（各々予定含む）を発掘し、あいち低炭素水素サプライチェーンを普及拡大させる。

（取組）

- ・ 県においては、上流側を中心に事業者ヒアリングを実施するとともに、水素エネルギー社会形成研究会等を通じて、下流側も含めて関心の高い事業者を発掘する。
- ・ 各構成員においては施設見学や問い合わせがあった場合等において関心の高い事業者を見いだして積極的に働きかける。
- ・ 県は、関心の高い事業者間の調整を行うことにより、各事業者を繋げ、プロジェクトとして発展させる
- ・ 推進会議において、プロジェクト化に必要な支援策等について検討する。
- ・ プロジェクト立ち上げ後は取組状況を振り返り、今後の取組に役立てる。

2 低炭素水素の取組の国内外への発信

イベント、フォーラムその他の機会を利用して、県内の取組等に関する情報発信を行い、低炭素水素に関する理解と関心を高める。

（取組）

- ・ 世界水素技術会議（2019年6月に東京で開催）において推進会議として、あいち低炭素水素サプライチェーンの取組を発表する。（登壇申込期限 2019.1.18）
- ・ 県では、メッセナゴヤ（毎年11月）、低炭素社会づくりフォーラム（毎年12月）、水素エネルギー社会形成研究会セミナー（年数回開催）等において低炭素水素サプライチェーンの取組をPRする。
また、小学生向けの普及啓発を行い、水素に対する理解を深める。
- ・ EPOCでは水素フォーラムを開催する。
- ・ 関係各社では施設見学によるPRを行う。

3 認証制度の課題検討

制度スタート時に課題とされた事項について検討を進め、認証制度を充実させていく。

(取組)

- ・ 認証制度の課題及び取組方向を議論し、その結果を踏まえて検討を進める。
- ・ 先行プロジェクトへの運用に際して、現行制度の問題点を検証し、必要に応じて改善を図る。
- ・ 上記の認証制度の課題を検討するため、「低炭素水素認証制度ワーキンググループ」を開催する。

<参考>制度スタート時に課題となった事項

- ① 再生可能エネルギー以外から製造された低炭素水素（廃熱などの未利用エネルギー由来の水素、化石燃料由来の水素と CCS の組み合わせ、副生水素等）への拡大。
- ② 液化水素、有機ハイドライド法によるメチルシクロヘキサン、アンモニア、メタンなど、様々な水素キャリアへの対応。
- ③ 低炭素水素の製造から、輸送、利用までに至るサプライチェーン全体の二酸化炭素排出量を削減していく必要があることに鑑み、ライフサイクルアセスメントの導入。
- ④ 制度運用に伴う問題点を検証するとともに、国における検討状況や技術開発の動向を踏まえた対応。

4 推進会議のあり方

推進会議においては、水素社会実現に向けたビジョン、ビジョン実現に向けた取組方針、認証制度の課題検討等の検討・議論や情報交換を行い、上記の低炭素水素サプライチェーンの取組を推進する。

推進会議は、原則として7月から8月、10月から11月、及び2月から3月に開催する。

5 推進会議の構成員の追加手続き

推進会議の構成員は、水素社会実現に向けたビジョン作りや、低炭素水素の普及拡大に向けた議論に参加する意欲がある者等とし、構成員の追加手続きを以下のとおり定めたい。

- ・ 推進会議の構成員は、新たに構成員とすることが適当であるものを推薦することができる。
- ・ 前項の推薦があった場合、推進会議の全構成員の同意により構成員とすることができる。

<推進会議の参加資格>

- ① 低炭素水素に関する取組を実施済み、又は実施することが確実であること。
- ② 今後、低炭素水素の利活用の拡大に向けて意欲的であること。
- ③ 低炭素水素の普及拡大に向けた議論に貢献すること。